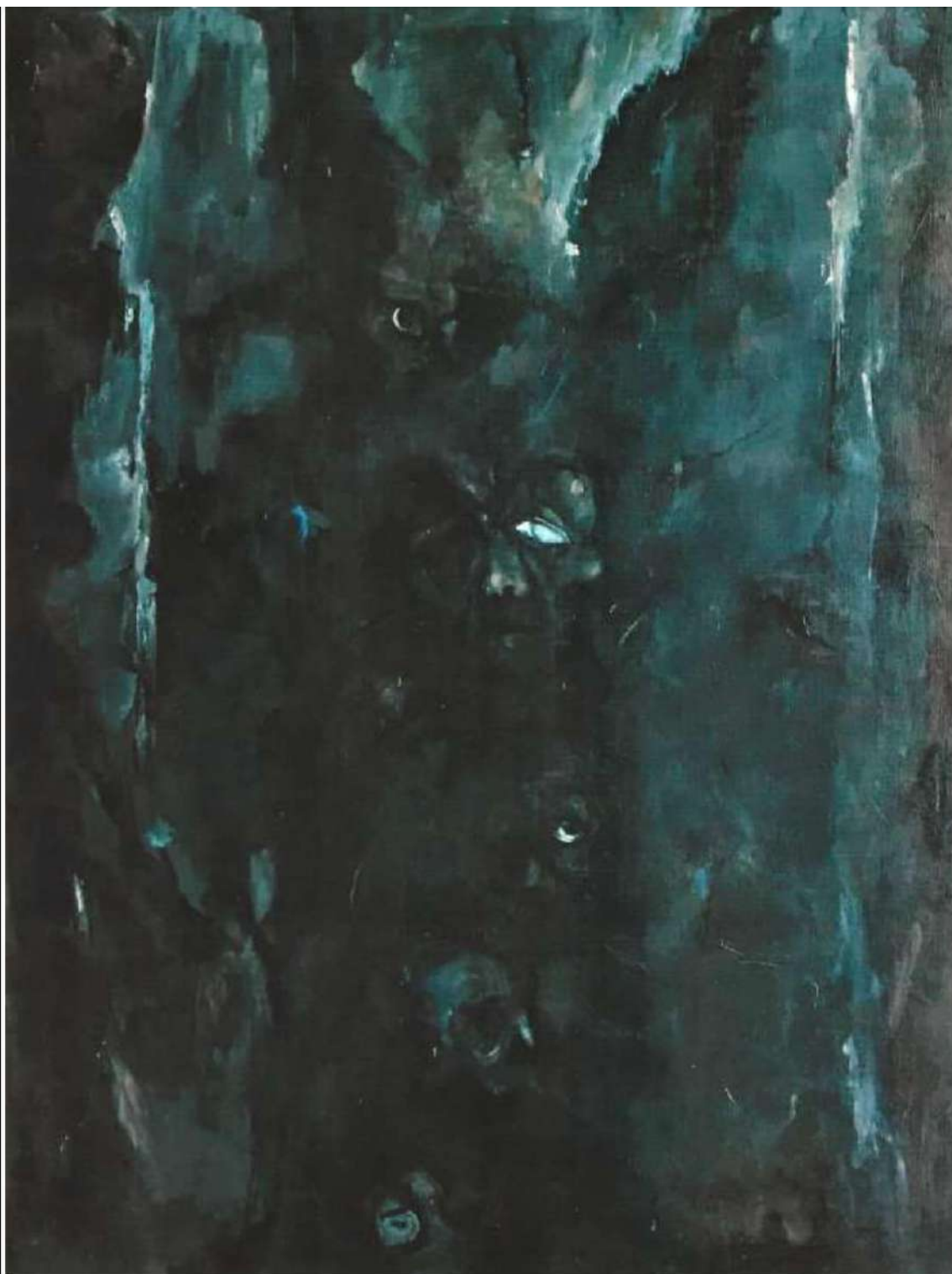


石井壬子夫展

ヒロシマシリーズ

記憶をつなぐ—人・街・戦禍



ヒロシマシリーズより「壁の中の顔」P80号 1979年

2023年9月28日(木)・29日(金)・30日(土)

14:00~19:00 入場無料

同時開催

「前橋空襲資料展

—地域における戦争の記憶」



会場：旧安田銀行担保倉庫西側 1階

〒371-0021 前橋市住吉町 2-10-2

※お車でお越しの際は倉庫南側駐車場No.16-22をご利用ください。

会場お問い合わせ 090-2522-8079 (村上)

主催：石井壬子夫展実行委員会

共催：上州文化ラボ

ごあいさつ

石井壬子夫展実行委員会

「石井壬子夫展 ヒロシマシリーズ 記憶をつなぐ一人・街・戦禍」を開催いたします。

今回は、石井壬子夫のヒロシマシリーズの絵を中心にデッサン・エスキースを展示いたします。石井壬子夫がヒロシマシリーズに取り組み始めたのは1975年頃とされています。そのきっかけとなった理由については、現在のところ詳らかにされていません。ただ、先の戦時下の体制の中で、教師の立場から若い人たちを戦地に向かわせたことに対して大きな負荷を背負っていたことは、伝えられています。画家はなぜ「ヒロシマ」を描こうと思いついたのでしょうか。推察するに、もっとも苛烈な戦禍の象徴ともなっている「ヒロシマ」を自らの意思によって呼び寄せたのではないかとと思われるのです。それは、描くことを通して「ヒロシマ」の惨劇に対峙し、死者の記憶に分け入っていく、そのことによって厳しく己自身の過去と現在を問ひ直す「巡礼」であったのかもしれませんが。石井壬子夫の卓越した描線と、深みのある色彩は、苦しみの先に見る浄化の光を潜ませているように思われます。ご高覧の程、宜しくお願いいたします。

石井壬子夫プロフィール

- 1912年 香川県高松市（父の赴任先）に生まれる。
- 1932年 東京美術学校（現東京藝術大学）図画師範科入学。
- 1935年 同校卒業。春陽会展に入選。茨城県立水戸中学校に赴任。
- 1944年 群馬県立桐生高等女学校に転任。
- 以降、葉鹿町立葉鹿中学校、栃木県立足利高等学校に転任。
- 1970年 教諭を退職。武蔵野美術学園研究科に入学。
- 1973年 この頃より毎日1枚自我像（自己像）を描くようになる。
- 1975年 この頃より広島をテーマとしたシリーズに取り組む。
- 1990年 前橋・煥乎堂にて個展。画集刊行。6月15日肺炎にて死去。享年78歳。
- 1992年 桐生・大川美術館にて「石井壬子夫展」開催。
- 1993年 大川美術館にて「石井壬子夫『自己像』展」開催。
- 2012年 大川美術館にて

「作家特集展示 石井壬子夫～生誕100年を迎えて」開催。



ヒロシマシリーズ エスキース「扉」



ヒロシマシリーズエスキース



ヒロシマシリーズエスキース



ヒロシマシリーズ「休息する労働者」



ヒロシマシリーズ エスキース「『炉』のための素描」



「家族」のための素描



旧安田銀行担保倉庫

＊同時開催 前橋空襲資料展—地域に残る戦争の記憶 9月28日～30日 14:00～19:00 入場無料

主催：上州文化ラボ 共催：あたご歴史研究会・NPO 法人 街・建築・文化再生集団

協力：住吉町二丁目自治会・前橋に「平和資料館」設立をめざす会・前橋工科大学臼井研究室

・広瀬川美術館・協同組合前橋商品市場 問い合わせ 090-2522-8079（村上）